

「聖書協会共同訳の特徴について——礼拝にふさわしい聖書を目指して——」

新訳聖書セミナー 於 松山ひめぎんホール

2018年6月24日、樋口 進

序

聖書は、元来、旧約聖書がヘブライ語（一部アラム語）で、新約聖書がギリシア語で書かれています。しかしキリスト教会は、最初から聖書が、いつの時代でも、どこの地域の人でも読めることが必要である、と願ってきました。そこで、聖書は、あらゆる時代に、あらゆる地域の言語に翻訳されてきました。キリスト教の歴史は、聖書翻訳の歴史と言っても過言ではないと思います。事実、聖書は、世界中のあらゆる言語に翻訳され続けています。聖書協会の2013年の統計では、その翻訳言語数は2,551の言語というから驚きです。今回の『聖書協会共同訳』もこのいつの時代にも誰にでも読めることを目指すという流れにあります。

I、聖書翻訳の歴史

歴史において、多くの聖書翻訳の事業がなされてきましたが、そのごく一部を紹介しましょう。

a) 七十人訳（LXX）

紀元前3世紀にヘブライ語の旧約聖書がギリシア語に翻訳されましたが、そのいきさつが偽典の「アリストアスの手紙」に伝えられています。それによりますと、エジプトのアレキサンドリアに72人（各部族より6人ずつ）の学者が集められ、72日でトーラー（律法）がギリシア語に翻訳された、ということです。その当時、アレクサンドリアのユダヤ人はヘブライ語が読めなくなっていたからです。その後、紀元1世紀までにトーラー以外の書も順次訳されていったということです。キリスト教では、もっぱらギリシア語訳で旧約聖書が読まれました。

b) ウルガタ（ラテン語訳）

これは、現代に至るまでローマ・カトリック教会の公認聖書とされています。ヒエロニムスが紀元4世紀後半より5世紀初頭にかけて旧約聖書をヘブライ語から、新約聖書をギリシア語から翻訳しました。一時期、ベツレヘムの洞窟にて翻訳の仕事を中心して行った、ということです。その途上に、支えてくれていた女性が死んだので、その頭蓋骨を机において翻訳した、という言い伝えもあります。このラテン語訳は非常に優れた翻訳として定評がありますが、誤訳もありました。出エジプト記34:29で、「モーセの顔が光を放っていた（ヘブライ語でカーランという語）」というのを「顔に角（ヘブライ語でケレンという語）が生えていた」と訳しました。そこで、ミケランジェロの傑作である「モーセ像」には、角が二本生えています。

c) ルター訳

マルティン・ルターは、1517年に宗教改革を起こし、1521年にヴォルムスの国会に喚問

され、身の危険が迫りましたが、ワルトブルグ城に保護されました。その時彼は、一般民衆がドイツ語で聖書を読めるように、新約と旧約をそれぞれ原典からドイツ語に翻訳しました。これは当時発明されたグーテンベルクの印刷術によって、瞬く間にドイツ中に普及し、大きな影響を与えました。ルター訳ドイツ語聖書は、現在でも広く使われています。

d) The King James Version (KJV、欽定訳)

1607年に英国王ジェームズ I 世の命により 54 人の改訳委員が選ばれ、分担翻訳し、1610年に完成し、1611年に出版されました。格調高い英語で表わされ、非常に普及していますが、翻訳上の問題も多く、1983年に改訂版が出されました (New King James Version)。

e) Revised Standard Version (RSV) (改訂標準訳)

カナダとアメリカの 40 の主な教派が委員会を形成して作られたもので、新約が 1946年に、旧約が 1952年に、全訳が 1957年に完成しました。当時の最高の学識によったもので、名訳とされています。また、これを現在の聖書学の成果を取り入れて、全面改訂した版が 1990年に出されました (New Revised Standard Version)。

g) 日本語訳

①ギョツラフ訳：1835年、ドイツ人宣教師ギョツラフが日本人漂流民（岩吉、久吉、音吉）の助けによって中国で作られた日本語最古の聖書です。これは、三浦綾子の『海嶺』という小説にも紹介されています。ヨハネによる福音書の冒頭は、「ハジマリニ カシコイモノゴザル、コノカシコイモノ ゴクラクトモニゴザル、コノカシコイモノワゴクラク」と訳されました。

②聖書協会出版のもとしては、文語訳が 1887年（明治 20年）に、大正改訳が 1917年（大正 6年）に、口語訳が 1955年（昭和 30年）に、新共同訳が 1987年（昭和 62年）に出されました。

③その他の日本語訳としては、新改訳聖書の第 3 版が 2003年に、岩波訳聖書が 2007年に、フランシスコ会訳聖書が 2011年に、最新のものとしては昨年新改訳 2017年が出されましたが、それぞれ特徴のあるいい翻訳聖書だと思います。

II、新しい聖書翻訳の必要性

言葉は時代と共に変化します。昨年、『広辞苑』が 10 年ぶりに改訂されました（第 7 版）。ここでかなり多くの語が加えられた、ということで、やはり言葉は日々変化します。先ほど述べましたが、日本聖書協会から出された聖書も大体 30 年おきに新しい訳が出されてきました。

『新共同訳』は、20 世紀のエキュメニカル運動の流れの中にあって、カトリックとプロテスタントが共同して訳したということが高く評価されます。そして、日本の多くの教会の礼拝で使われています（70%の教会で）。しかし、不適切な訳も指摘されてきました。最初ユージン・ナイダの提唱した「動的等価」理論で思い切った現代的な訳ということで進められた。そして 1979 年に『新約聖書 共同訳』が出版されましたが、かなり不評でした。例えば、固有名詞が原音に近いと言うことで、イエスはイエススになり、福音書は「マ

タイオス」「マルコス」「ルカス」「ヨハネス」福音書となるなど、多くの人が違和感を持ちました。また、マタイによる福音書の山上の説教で、「心の貧しい人は幸いである」というのが、現代的な訳と言うことで「ただ神により頼む人々は、幸いだ」という訳になり、やはり違和感を抱きました。そこで、途中から原文に忠実な訳ということに方向転換がなされましたが、曖昧さが残ってしまったところも多くありました。また、説明的な訳語も多くあります。例えば、ラシャー（「悪人」）は「神に逆らう人」と（詩 125:3 など）、ツァディーク（「正しい人」）は「神に従う人」（ハバ 2:4）などと訳されました。

エレミヤ書 22 章 15 節は、新共同訳では次のように訳されました。

あなたは、レバノン杉を多く得れば／立派な王だと思ふのか。

あなたの父は、質素な生活をし（アーカル・ウェシャサー）

正義（ミシュパート）と恵みの業（ツェダカー）を行ったではないか。

そのころ、彼には幸いがあった。

ここでエレミヤは、現在の圧政的な王ヨヤキムと正しい政治をしたその父ヨシヤを比較して、ヨヤキム非難しているのです。ここで「質素な生活をし」と訳されている原文は「食べ、そして飲む（アーカルとシャサー）」を意味する語です。ここでは、最初の方針である「動的等価」の訳が残ってしまったのでしょうか。ただし、アーカル・ウェシャサーを「質素な生活をする」と訳している聖書はありませんし、そのような意味ではないと思います。少し独断的な訳だと思います。新共同訳には、このような訳が所々に見受けられます。また、ツェダカーは普通は「正義」と訳されますが、新共同訳では「恵みの業」と訳されました。これも不適切な訳だと思います。そしてここでは、ミシュパートが「正義」と訳されていますが、これも「公正」がいいと思います。そこで、協会共同訳では、

あなたはレバノン杉を競って用い

それで王であろうとするのか。

あなたの父は食べそして飲み

公正と正義を行ったではないか。

その時、彼は幸福だった。

と原文に忠実に訳されました。

Ⅲ、聖書協会共同訳の方針

さて、聖書協会共同訳の方針は、新共同訳の成果を生かしつつ、とりわけカトリックとプロテスタントで共同で翻訳するということを継承して、多くの教会で受け入れられるような分かりやすく、かつ より自然な美しい日本語の翻訳を目指すということです。

まずは、オランダのローレンス・デ・フリスの提唱した「スコポス理論」に基づくということの方針にしました。「スコポス」というのは、ギリシア語で目的、目標、役割という意味です。そして、聖書協会共同訳は、礼拝の朗読に使うということスコポス（目的）にするということが決められました。そこで私たちは、礼拝の朗読にふさわしい訳ということ意識しつつ翻訳作業に携わりました。夏と春には、修道院において一週間ほど合宿

をして翻訳作業を行いました。毎朝礼拝を行い、また作業を始めるときはまず聖霊の導きを祈って始めました。

次に、原文に忠実に、かつより自然な日本語にという方針です。そこで、この翻訳事業では、最初から、原語担当者と日本語担当者が共同で作業をしました（第1稿、第2稿、第3稿）。次に、数人の原語担当者、日本語担当で、さらに訳文を検討する翻訳者委員会が行われました（第4稿）。次に、朗読チェックが行われ、朗読上問題がないかどうかを吟味しました（第5稿）。次に、神学や文学などいろんな専門家を加えて、さらに訳文を検討する編集委員会が行われました（第6稿）。従って、多くの場合、最終的な訳文は、最初の訳文からかなり変化しています。

今度の翻訳で、今までになかった一つの特徴は、脚注を付けたということです。これは、古代訳などによって原文を読み替える場合、語呂合わせなどの時の原語の発音を記す場合、同じ原語にもいくつかの訳語が可能な場合などです。ただしスペースの関係で、最小限にしています。

次に、礼拝の朗読にふさわしく聖書としての荘重さを出すということです。神に対しては、敬語を使用します。例えば、「主なる神は言われる」「神は地をご覧になった」「預言者に御手が臨んだ」などです。また、預言者が神の言葉を伝えるとき、しばしばその最後に（途中に入る場合もある）ネウム・アドナイと記されます。これは、新共同訳（口語訳も）では、「と主は言われる」と訳されましたが、ネウムというのは名詞です。そこで新翻訳では、「——主の仰せ——」と訳し、これは神の言葉だ、という荘重さを出しました。

次に、不快語・差別語を避けるということです。神が人間に語る時、新共同訳ではしばしば「お前」「お前たち」と訳されましたが、これは現代においては不快だ、という意見があり、「あなた」「あなたがた」と表記しました。また、「はしため」は差別語ということで「仕え女」にしました。

また、今までの分かりにくい語をより分かりやすい語に変えたものもあります。例えば、ナハラは従来「嗣業」と訳されていましたが、日本語として一般的に定着しておらず、土地の場合は「相続地」、民の場合は「所有の民」などと分かりやすい訳語にしました。また、ツァディークは「義人」、「神に従う人」と訳されてきましたが、「正しき人」と分かりやすくしました。また、「全地（コル・ハアーレツ）」や「全家（コル・ハバイト）」は、「すべての地」「すべての家」と分かりやすく訳されました。

また、聖書学の最新の成果をできるだけ取り入れることにしました。聖書学は、社会史的に、考古学的に、文献学的に、フェミニズム的に日々進歩し続けています。今回の訳には、その成果をできるだけ反映しました。特に、動植物や宝石などの同定などです。

IV、実例

次に、特に新共同訳と比べてどのような訳になるのかの例をいくつか紹介しましょう。

創世記 1 : 2 7

新共同訳では「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」と訳されています。『特徴と実例』P.3 にありますが、ここで「かたどって」と訳されている語（ツェレム）は、「かたち」という名詞です。

協会共同訳では、「神は人を自分のかたちに創造された。神のかたちにこれを創造された。男と女に創造された。」と適切に訳されました。口語では「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」と訳され、新改訳 2017 でも「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に創造された。」と適切に訳されています。

七十人訳ではエイコンと訳され、これは新約でも「かたち」と訳されています。ちなみに、ラテン語では *Imago Dei*（神の像）と言います。

創世記 2 : 7

新共同訳では「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」と訳されました。

協会共同訳では、「神である主は、c土（「へ」「アダマ」）の塵でd人（「へ」「アダム」）を形づくり、その鼻に命の息吹を吹き込まれた。人はこうして生きる者となった。」と訳されました。ここは、原文は YHWH・エロヒームですが、旧約聖書には アドナイ・YHWH（発音はアドナイ・エロヒーム）という表現も多く出ます。新共同訳では、どちらも「主なる神」と訳されていますが、協会共同訳では YHWH・エロヒームは「神である主」、アドナイ・YHWH は「主なる神」と区別して訳されました。

ちなみに、新改訳 2017 でも「神である主」と適切に訳されています。

YHWH（神の名）は、アドナイ（「わが主」という意味）と発音されますが、アドナイ YHWH のときは、アドナイ・アドナイでなく、アドナイ・エロヒームと発音されます。そして日本語聖書の多くでは、「主」と訳されます（岩波訳では「ヤハウエ」）。ただ一箇所創世記 22:14 だけは、原音表記で「ヤハウエ・イルエ」と記されています。

ここでは、「土」と「人」に脚注があり、ヘブライ語では、「アダマ」と「アダム」の語呂合わせになっていることを示しています。

創世記 2 : 1 2

新共同訳では「その金は良質であり、そこではまた、琥珀の類やラピス・ラズリも産出した。」と訳されていますが、最近の研究成果により、ブドラクは「琥珀」ではなく、ショーハムは「ラピス・ラズリ」ではないということが明らかにされ、協会共同訳では「その地の金は良質で、そこではまた、ブドラク香やカーネリアンも産出した。」と訳されました。ただ、宝石の同定はなかなか難しいです。

創世記 2 : 2 4

新共同訳では「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」と訳されました。イッシャは、「女」とも「妻」とも訳されますが、フェミニズムの視点から、ここは夫婦ということが意識されているので「その妻」と訳するのが適切であるという意見が出され、協会共同訳では「こういうわけで、男は父母を残して、妻と結ばれて一体となる。」と訳されました。ちなみに、新改訳2017では「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」と適切に訳されています。

創世記3：16

新共同では「神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め／彼はお前を支配する。」と訳されています。原文は、「あなたのイツァボン（苦しみ）とあなたのヘローン（身ごもり）」で必ずしも二詞一意ではないという意見があります。岩波訳では「あなたの労苦と身ごもり」となっています。フェミニズム的視点では、「身ごもり」は苦しいけれど、他方祝福でもあるという意見だということです。協会共同訳ではこの意見を反映して脚注にそれを別訳として載せました。「神は女に向かって言われた。「私はあなたの c 身ごもりの苦しみ（別訳「苦しみと身ごもり」）を大いに増す。あなたは苦しんで子を産むことになる。あなたは夫を求め、夫はあなたを治める。」それからイシャークは、正確には「あなたの夫」で、一般的な「男」（新共同訳）ではありません。ここもあくまで夫婦の関係を言っており、一般の男を求めるというのではないので、「あなたは夫を求め」と訳されました。

出エジプト記3：14（『特徴と事例』P.4）

新共同訳では、「神はモーセに、『わたしはある。わたしはあるという者だ』と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」とあります。しかし、協会共同訳では「神はモーセに言われた。『a 私はいる、という者である（「ギ」「私はあるという者だ」）。』そして言われた。「このようにイスラエルの人々に言いなさい。『私はいる』という方が、私をあなたがたに遣わされたのだと。」協会共同訳では神の名のイエフエーを「私はいる」と訳しました。これは3:12の「私はあなたと共にいる」と密接に関係があるとの理解からです。脚注で示したように、七十人訳では、エゴー・エイミ・ホ・オーン（私はあるという者だ）と存在論的に訳され、その影響があるようです。口語訳でも「わたしは、有って有る者」と訳され、新改訳2017でも「わたしは『わたしはある』という者である。」と訳されました。

レビ記1-5章

献げ物の種類として、オラー、ミンハー、ゼバー・シェラミーム、ハッタート、アシャームの訳語を口語訳では「燔祭」「素祭」「酬恩祭」「罪祭」、「愆祭」と、新共同訳では「焼き尽くす献げ物」「穀物の献げ物」「和解の献げ物」「贖罪の献げ物」「賠償の献

げ物」と訳されていましたが、協会共同訳では焼き尽くすいけにえ、穀物の供え物、会食のいけにえ、清めのいけにえ、償いのいけにえと訳されました。ここでは特に、動物犠牲には「いけにえ」という訳語が用いられました。

ヨブ記 2 : 9

新共同訳では「彼の妻は、／「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、」と訳されています。しかし、バーラクは「祝福する」という意味です。それでは意味が通じないと言うことで、多くの訳（口語訳も新改訳 2017 も）「呪って」と訳しています。BHS の脚注では「たたえて」との読み替え（婉曲語法）が提案され「岩波訳」ではそう訳されています。協会共同訳では「彼の妻は言った。「あなたは、まだ完全でいるのですか。神を 呪って（直訳「祝福して」）死になさい。」と、直訳を脚注で示しました。

ヨブ記 19 : 26

新共同訳では「この皮膚が損なわれようとも／この身をもって／わたしは神を仰ぎ見るであろう。」と訳されています。「この身をもって」と訳されているミツベサリー は、文字通りには「肉から」です。新共同訳では「この身をもって」と少し意識されています。協会共同訳では「私の皮膚がこのように剥ぎ取られた後、私は 肉を離れて（直訳「肉から」）、神を仰ぎ見るであろう。」と脚注で直訳が記されました。口語訳では「肉を離れて」と、新改訳 2017 では「私の肉から神を見る」と訳されています。

詩編 23 : 1-2

新共同訳では「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。2 主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりにに伴い」と訳されています。協会共同訳では「主は私の羊飼い／私は乏（とぼ）しいことがない。2 主は私を緑の野に伏させ／憩いの汀（みぎわ）に伴われる。」と訳されました。代名詞語尾はできるだけ省略する方針ですが、ここは「私の羊飼い」とすべきでしょう（新共同では「わたしの」は省力されました）。また、従来訳であった「憩いの汀」と美しい詩的表現が復活されました。（口語訳、新改訳 2017 もそう訳されています。これはしばしば、命名に用いられました）。

コヘレトの言葉 1 : 2

新共同訳では「コヘレトは言う。なんという空しさ／なんという空しさ、すべては空しい。」と訳されました。協会共同訳では「コヘレトは言う。空（くう）の空。空の空、一切（いっさい）は空である。」と訳されました。コヘレトは、口語訳でも新改訳 2017 でも「伝道者」と訳されていますが、新共同訳を踏襲してヘブライ語の通り「コヘレト」と訳されました。ヘベルは、新共同訳では「空しさ」と訳されましたが、口語訳や新改訳 2017 のように「空」の方がふさわしく、朗読の時の響きもいいと思います。

イザヤ書40：30

新共同訳では「主に望みをおく人は新たな力を得／驚のように翼を張って上る。」と訳されましたが、クーアッハは、「待つ」という意味です。そこで、協会共同訳では「しかし、主を待ち望む者は新たな力を得、驚のように翼を広げて舞い上がる。」と訳されました。口語訳でも新改訳2017でも「待ち望む」と訳されています。ちなみに、わたしの娘は口語訳のこの箇所から「待子」とつけたのですが、新共同訳で「待つ」という語がなくなったので、がっかりしましたが、今度は復活し、個人的には嬉しく思っています。

エレミヤ書6：13

新共同訳では「身分の低い者から高い者に至るまで／皆、利をむさぼり／預言者から祭司に至るまで皆、欺く。」と訳されています。最近の社会史的研究では、ミックタンナム・アド・ゲドラムは、「小さい者から大きい者まで」で、必ずしも身分の上下を言っているのではないということが指摘されています。そこで協会共同訳では「小さな者から大きな者に至るまで皆、暴利を貪り 預言者から祭司に至るまで皆、虚偽をなす。」とヘブライ語の通りに訳されました。ちなみに、口語訳は「小さい者から大きい者まで」と原文通りに訳されていますが、新改訳2017では「身分の低い者から高い者まで」と訳されています。

エレミヤ書20：7

新共同訳では「主よ、あなたがわたしを惑わし／わたしは惑わされて／あなたに捕らえられました。あなたの勝ちです。わたしは一日中、笑い者にされ／人が皆、わたしを嘲ります。」と訳されています。しかし、パーターという動詞は、「誘惑する」という意味です。出エジプト記22:15では、「おとめを誘惑する」というときに使われています。そこで協会共同訳では「主よ、あなたが誘(いざな)ったので、私は誘われました。あなたは私より強く、私にまさりました。私は一日中笑い物となり、皆が私を嘲ります。」と訳されました。

エゼキエル書16：10

新共同訳では「そして、美しく織った服を着せ、上質の革靴を履かせ、亜麻布を頭にかぶらせ、絹の衣を掛けてやった。」と訳されています。ここにはいろいろな身につける物が出て来ますが、これらの同定はなかなか困難です。しかし、協会共同訳では、最新の研究成果を取り入れ、「あなたに彩(いろど)り豊かな衣(ころも)を着せ、じゅごんの皮のサンダルを履かせ、上質の亜麻布をまとわせ、d 高価な衣服(不詳)で覆った。」と訳されました。メシーは、新共同訳、新改訳、口語訳では「絹」と訳されていますが、この時代パレスチナに「絹」はなかったという指摘があります。しかし、正確には分からないので、注で「不詳」としました。

ハバクク書 2 : 4

新共同訳では「見よ、高慢な者を。彼の心は正しくありえない。しかし、神に従う人は信仰によって生きる。」と訳されています。協会共同訳では「見よ、高慢な者を。その心は正しくない。しかし、正しき人はその d 信仰 (別訳 「真実」「誠実」) によって生きる。」と訳されました。ツァッディークは、新共同訳では「神に従う人」と説明的に訳されましたが「正しい人」が適切でしょう。ラシャーも新共同訳では「神に逆らう人」と説明的に訳されていますが、「悪しき人」が適切でしょう。

エムナーは、「信仰」「真実」「誠実」などの意がありますので、脚注で別訳を記しました。

ローマの信徒への手紙 3 : 22 (ガラ 2 : 16, 20)

新共同では「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。」と訳されましたが、協会共同訳では「神の義は、イエス・キリスト d の真実 (別訳 「への信仰」)を通して、信じる者すべてに現されたのです。そこに差別はありません。」と訳されました。ここでもピスティスには「信仰」「真実」の意味がありますので、脚注で別訳を記しました。

ガラテヤ 1 : 2

新共同訳では「ならびに、わたしと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。」と訳されています。アデルフォイは、「兄弟たち」の意味ですが、ガラテヤの教会には女性もいたであろうというフェミニズム的視点から、協会共同訳では両方が含まれることを意識して、「ならびに、私と共にいるきょうだい一同から、ガラテヤの諸教会へ。」と平仮名表記にしました。

以上、ごく一例ですが、最初に申しましたように、原文に忠実に、より自然な美しい日本語で、しかも礼拝にふさわしい翻訳を目指した一端をご紹介しました。

(聖書協会共同訳は現在出版準備中です。訳文は、まだ変化する可能性があります。)